

市長新春対談

～広告の世界に魅了されて～



広告専門誌「宣伝会議」編集室長
田中里沙さん

津市長前葉泰幸

平成25年11月13日、広告専門誌「宣伝会議」編集室長の田中里沙さんを前葉泰幸市長が訪ね、三重県の首都圏営業拠点「三重テラス」で首都圏から見た津市の施策や情報発信などについてお話を伺いました。

夢に向かってチャレンジ

市長 田中さんは、津市出身で津高校を卒業後、上京され、現在、株式会社宣伝会議の編集室長という立場で「宣伝会議」や「月刊事業構想」といった専門誌を発行されています。これらの冊子の内容や会社についてご紹介いただけますか。

田中 はい。「宣伝会議」は企業や自治体、大学などに対し、さまざまな事例を交えながら、広告宣伝やコミュニケーションの手法、考え方を紹介する雑誌で、会社の創立



当初から発行しており、今年で発刊60年目を迎えます。

市長 単に物を売るための広告だけでなく、いわゆる広告宣伝のノウハウを伝える冊子ということですね。

田中 そうなんです。創刊と同時にコピーライターやマーケターを育成する教育事業も行っていて、その流れの中で、2012年の春には文部科学省の認可を受けた「事業構想大学院大学」を設立しました。その大学出版部で発行している雑誌が「月刊事業構想」になります。

目の前にある構想を形にするためには、いろいろなアイデアと仲間が必要ですので、この雑誌を通じ、多くの人をつながたいと考えています。

市長 広告の世界に入られたのは、どのようなきっかけがあったのですか。

田中 当初は大学卒業後、津市に戻ろうという気持ちもあったのですが、東京で広報や宣伝という世界があることを知り、ぜひこ